

【福島県合同輸血療法委員会】

輸血に関するアンケート調査集計結果（2019年）【2020年6月17日時点】

*参考：【 】内は2018年1月～12月の調査結果

病院版

1 調査対象施設等

- (1) 調査対象施設：県内の病院94施設
- (2) 調査対象期間：2019年1月から12月まで
- (3) 調査方法：アンケートへの依頼文書を郵送で送付し、福島県薬務課のホームページよりファイル(Excel形式)でダウンロードし、記入したファイルをメールに添付した形で回収した。対応が困難な場合は、FAX等で回収した。
- (4) 回収率：85.1%（80病院から回答）

2 集計結果の概要（項目別）

◎集計結果の報告書を作成するにあたり、病院名等を公開して良いか

可：48病院（60.0%）

I 輸血管管理料取得状況について

48病院（60.0%）〔管理料Ⅰ：12病院、管理料Ⅱ：36病院〕

II I & A取得状況について

取得済：5病院（6.3%）

III 輸血療法委員会等について

- (1) 輸血療法委員会等の設置数 【65病院（82.3%）】
67病院（83.8%）

- (2) 輸血療法委員会を設置しない理由（複数回答あり）

13病院

（指導医がない：9、他の委員会で協議：5、使用がほとんどない：5、その他：1）

- (3) 輸血療法委員長の職種

医師（専門科目：外科31（心臓血管、脳神経、整形等を含む）、内科24（消化器、循環器、腎臓、血液等を含む）、麻酔科3、消化器科2、循環器科1、泌尿器科2、精神科1、その他2、未回答：1）

- (4) 輸血療法委員会の開催回数（回/年）

6回/年：45、12回/年：8、1回/年：3、2回/年：3、4回/年：3、8回/年：1、

9回/年：1、10回/年：1、11回/年：1、1～2回/年：1

- (5) -1 県内認定臨床輸血看護師、アフエレーシスナース、自己血輸血看護師、認定輸血検査技師人数（合計）

認定・臨床輸血看護師：71、認定・アフエレーシスナース：12、認定・自己血輸血看護師：22

認定・輸血検査技師：26

- (5) -2 輸血療法委員会参加人数（医療施設数/輸血療法委員会有67施設）

認定臨床輸血看護師：35（20/67）認定・アフエレーシスナース：2（1/67）

認定・自己血輸血看護師：5（3/67）認定輸血検査技師：17（15/67）

IV 指針等について

(1) 輸血部門の設置数等（複数回答あり）

輸血部門：59病院（73.8%）【57病院（72.2%）】

{	検査部	58件
	輸血部	4件
	薬剤部	6件

血液製剤保管場所（複数回答あり）

{	検査部	62件
	薬剤部	19件
	輸血部	5件
	その他	4件

(2) 自記温度計、警報装置の設置数等（複数回答あり）

自記温度計：73病院（91.3%）【71病院（89.9%）】

{	記録の頻度	毎日	79件
		年に1回	1件

警報装置：75病院（93.8%）【74病院（93.7%）】

{	冷蔵庫・冷凍庫の保守点検の頻度	毎日	46件、	年に1回	16件、	月に1回	9件、
		週に1回	1件、	半年に1回	1件、		
		その他	8件				

(3) 他の管理項目等

1) 運搬容器の設置：65病院（81.3%）【63病院（79.7%）】

2) 輸血用血液製剤と血漿分画製剤の管理の一元化：32病院（40.0%）【27病院（34.2%）】

3) 管理記録簿等：80病院（100.0%）【79病院（100.0%）】

内訳（複数回答有）

コンピュータ管理：23、手書き伝票：30、両方：26、その他：1

(4) 輸血前後の感染症検査の実施

輸血前のみ：12病院、輸血後のみ：12病院、両方：49病院、行っていない：6病院、未回答：1病院

{	HBV	HBs抗原	61件（76.3%）
		HBs抗体	33件（41.3%）
		HBc抗体	29件（36.3%）
		その他	3件（3.8%）
{	HCV	HCV抗体	61件（76.3%）
		HCVコア抗原	25件（31.3%）
		その他	1件（1.3%）
{	HIV	HIV抗体	30件（37.5%）
		その他	1件（1.3%）

{	HBV	核酸増幅検査	48件（60.0%）
		その他	12件（15.0%）
{	HCV	HCVコア抗原	48件（60.0%）
		その他	11件（13.8%）
{	HIV	HIV抗体	49件（61.3%）
		その他	2件（2.5%）

(5) 感染症検査用検体の保管等
65病院 (81.3%) 【64病院 (81.0%)】

(6) 遡及調査ガイドラインで求められる検査項目の認知 (新規調査)
64病院 (80.0%)

V 輸血検査および輸血実施について

(1) 患者血液型検査の二重チェック : 64病院 (80.0%)

(2) 不規則抗体スクリーニング

1) 輸血前不規則抗体スクリーニング : 72病院 (90.0%)

2) 間接抗グロブリン試験を含む検査法 : 74病院 (92.5%)

3) 陽性となった場合の対応 :

{	民間の検査センター	24病院、	自施設	24病院、
	血液センター	12病院、	自施設・血液センター	8病院、
	民間の検査センター・血液センター	5病院、		
	自施設・民間の検査センター	1病院、	未回答	6病院

(3) 交差適合試験

1) 輸血前交差適合試験 : 80病院 (100.0%)

2) 輸血に先立つ3日以内の検体を用いて実施 : 79病院 (98.8%)

3) 間接抗グロブリン試験を含む検査法 : 77病院 (96.3%)

4) コンピュータクロスマッチの実施 (新規調査) : 5病院 (6.3%)

5) 陽性となった場合の対応 :

{	自施設	26病院、	血液センター	23病院、
	民間の検査センター	15病院、	自施設・血液センター	8病院、
	自施設・民間の検査センター	1病院、		
	民間の検査センター・血液センター	4病院、		
	自施設・民間の検査センター・血液センター	1病院、	未回答	2病院

(4) 患者認証方法

1) 実施場所 :

{	患者ベッドサイド	62病院、
	患者ベッドサイド・ナースステーション	14病院、
	ナースステーション	4病院

2) 複数名で確認している : 78病院 (97.5%) のうち その他 2病院

3) 電子照合システム導入 : 37病院 (46.3%)、その他 1病院 (1.3%)

(5) 経過観察

1) 輸血開始後バイタルチェック :

{	5分・15分	73病院 (91.25%)
	5分	2病院 (2.5%)
	15分	4病院 (5.0%)
	未回答	1病院 (1.25%)

2) 輸血終了後バイタルチェック : 78病院 (97.5%)

VI 輸血用血液製剤使用状況について

全血液製剤使用単位数合計 247,019 単位

- (1) 赤血球製剤の使用量は 103,530 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、41.9%である。
- (2) 血小板製剤の使用量は 113,840 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、46.1%である。
- (3) 血しょう製剤の使用量は 29,649 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は 12.0%である。

VII 輸血用血液製剤廃棄状況について

全血液製剤廃棄単位数合計 2,208 単位

【2,667 単位】

全血液製剤の廃棄率は 0.9%である。

【1.1%】

(1) 赤血球製剤の廃棄量は 1,445 単位。

【1,529 単位】

(2) 血小板製剤の廃棄量は 255 単位。

【365 単位】

(3) 血しょう製剤の廃棄量は 508 単位。

【773 単位】

○輸血用血液製剤の在庫状況

輸血用血液製剤在庫有 16 病院 【15 病院】

VIII 輸血患者および輸血使用状況について

(1) 年代別及び男女別輸血状況について

輸血患者総数 22,033 人 (うち、年代別不明：男性 232 人、女性 229 人)

90歳以上	2,089 人 (9.5%)
80-89歳	5,843 人 (26.5%)
70-79歳	6,168 人 (28.0%) (うち、70歳以上年代詳細不明：314 人)
60-69歳	4,022 人 (18.3%)
50-59歳	1,704 人 (7.7%)
40-49歳	825 人 (3.7%)
30-39歳	402 人 (1.8%)
20-29歳	173 人 (0.8%)
10-19歳	117 人 (0.5%)
5-9歳	33 人 (0.2%)
0-9歳	196 人 (0.9%)
年代不明	461 人 (2.1%)
男性	11,478 人 (52.1%)
女性	10,555 人 (47.9%)

(2) 診療科別輸血状況 (回答医療施設数：80)

※うち 8 施設が、診療科別輸血患者数未記入

内科全体数 6,720 人 (うち、内科診療科詳細不明：20 人)

消化器内科：	1,894 人
循環器内科：	813 人
呼吸器内科：	123 人
血液内科：	2,650 人
その他内科：	1,220 人

外科全体数 5,281 人 (うち、外科診療科詳細不明：26 人)

消化器外科：	1,575 人
呼吸器外科：	140 人
心臓血管外科：	659 人
形成外科：	43 人
整形外科：	1,922 人
脳神経外科：	382 人
その他外科：	534 人

その他診療科全体数	2, 600人
{ <ul style="list-style-type: none"> 小児科： 産婦人科： 泌尿器科： 麻酔・集中治療科： その他： 	256人
	493人
	621人
	1, 021人
	209人

IX 自己血輸血について

自己血輸血実施病院：26病院（32.5%） 【26病院（32.9%）】

○貯血式自己血輸血（液状保存）

実施症例数（同種血併用例）：1,477例（31例） 【1,453例（26例）】
 採血量（貯血量）：3,751単位 【3,849単位】
 使用量（輸血量）：3,233単位 【3,355単位】

○貯血式自己血輸血（凍結保存）

実施症例数（同種血併用例）：12例（0例） 【9例（0例）】
 採血量（貯血量）：24単位 【34単位】
 使用量（輸血量）：22単位 【28単位】

○回収式自己血輸血

使用量の管理部門での把握：

{ <ul style="list-style-type: none"> はい いいえ その他で管理 未回答 	12病院
	26病院
	2病院
	40病院

実施症例数（同種血併用例）：578例（310例） 【354例（225例）】
 使用量（輸血量）：2,949単位 【409単位】

○希釈式自己血輸血

使用量の管理部門での把握

{ <ul style="list-style-type: none"> はい いいえ 未回答 	14病院
	22病院
	44病院

実施症例数（同種血併用例）：0例（0例） 【5例（1例）】
 採血量（貯血量）：0単位 【12単位】
 使用量（輸血量）：0単位 【12単位】

X 血漿分画製剤使用状況について

アルブミン製剤合計：526,138.9g 【358,444.0g】
 フィブリノゲン製剤合計：724.0g 【516.0g】

XI 外来輸血および在宅輸血について

(1) 外来輸血または在宅輸血実施

{ <ul style="list-style-type: none"> 外来輸血 在宅輸血 どちらも実施なし 未回答 	40病院（50.0%）
	0病院（0.0%）
	37病院
	3病院

(2) 外来輸血後の患者観察

{ <ul style="list-style-type: none"> 医療関係者 患者家族 医療関係者・患者家族 その他 	25病院
	8病院
	5病院
	2病院

(3) 在宅輸血時の患者観察 医療関係者 2病院

(4) 外来輸血または在宅輸血を実施している患者の主な診療科

}	血液内科	18件
	消化器内科	15件
	循環器内科	6件
	その他	23件

(5) 疾患名・人数

血液疾患	: 28件 (657人)
腎疾患	: 16件 (103人)
悪性腫瘍	: 16件 (201人)
消化管出血	: 18件 (529人)
その他	: 5件 (36人)

(6) 使用されている製剤の種類

赤血球製剤	: 10,566単位
凍結血漿製剤	: 80単位
血小板製剤	: 10,535単位

(7) 実施中または実施後の有害事象発生: 10病院

1)内訳: 発熱 5件、アレルギー症状 2件、呼吸困難 1件、血圧低下 1件、その他 4件

2)発生時点: 外来輸血

}	院内で実施中	10件
	帰宅後	1件

(8) 外来輸血に対応した有害事象発生時のマニュアル: 30病院 (37.5%)

(9) 外来輸血実施後の院内での休憩時間

}	30分未満	17病院	【14病院】
	30分以上1時間未満	18病院	【12病院】
	1時間以上2時間未満	5病院	【8病院】
	2時間以上	0病院	【3病院】

※前回の本項目における回答は37施設であった。

(10) 外来輸血が必要とされる患者の紹介先が予め決まっている: 13病院 (16.3%)

(11) 輸血のみを診療目的とする患者の受入: 15病院 (18.8%)

XII 製剤別購入量・廃棄量について

	購入量 (単位)	廃棄量 (単位)	廃棄率 (%)
赤血球製剤	104,975	1,445	1.4
血小板製剤	114,095	255	0.2
血しょう製剤	30,157	508	1.7